

今“さらなる充実の時”へ

来日直前!

マレイ・ペライアニュース



10月に3年ぶりのリサイタル・ツアーのために来日するマレイ・ペライア。
前回のリサイタルでは、すでに“巨匠”と呼ぶにふさわしい風格を持ちながら、音楽の奥底にあるエネルギーをすべて燃焼させる情熱的な演奏で、会場中の称賛を集めました。大きなブラボーと割れんばかりの拍手、心を震わしながら立ち上がるスタンディング・オベーションの様子は、今なお鮮明に思い出すことができます。
心に深く沁み入る美音と、内に秘めたパッションを持つマレイ・ペライア。
以前行なったインタビューとともに、近況をご報告いたします。

マレイ・ペライアに聞く

Q ベートーヴェンのソナタに対する想いをお聞かせいただけますでしょうか？

マレイ・ペライア(MP) ベートーヴェンのソナタに関しては、私は終わりのない歩み、努力を続けています。ベートーヴェンのピアノ・ソナタ全曲の譜面を見直し、ヘンレ原典版として出版するという壮大なプロジェクトを行いましたし、ベートーヴェンのソナタは常に私のレパートリーの中にある作品です。

私は、これまで演奏してきた作曲家に今後もこだわり続けます。《ハンマークラヴィア》は以前も演奏しましたが、今回改めて向き合い世界各地で行うリサイタルで弾きこんでいます。

Q ピアノの奏法は、根気よく修練を積むことで体得され、才能ある演奏家にとっても大変な技術です。
一体どうすればそのような

領域に達することができ、テクニクを長年維持することができのでしょうか？

MP…練習の虫なのです。練習することについての秘密があると…。大事なのは、音楽が好きだと言う事。まずこの対象に向ける愛がなければなりません。私は音楽をこよなく愛しているからこそ、その熱意が湧くのです。ですから、なぜたくさん練習できるか？というその理由は、第二に音楽への愛があるからです。若い演奏家を指導するときには、「聴きなさい、ご自分が好きな曲を、とにかく、聴きなさい。心にいま燃えているその炎を、保ちなさい。」と言います。そうすることで、いま続いている技術面の練習に、上達が見られるはずなのです。単なる技術を超えたその人独特の何かが加わってきます。技術のうえに生き生きとした表情が出てくるのです。

ピアノを弾きこなすことは、本当に難しいです。できたはずのことができなくなつて、また同じ練習をやり直すことだつて珍しくありません。失いかけては取り戻し、また無くしそうになつて、取り戻し…その繰り返しなのです。

マレイ・ペライアに寄せられる賛辞

♪ニューヨーク・タイムズ(アンソニー・トマシーノ
2016年5月)による批評から

リンカーンセンター「Great Performers シリーズ」公演
《ハンマークラヴィア》(ベートーヴェン…ピアノ・ソナタ第29番
変ロ長調 Op.106)は、圧倒的に複雑な曲である
ことは周知の事実であり、そのために十分なテクニク
が必要とされることも明白である。(中略)マレイ・ペライア
は、生き生きとした演奏を披露すると同時に、壮大な
アプローチは感動的だった。ゆったりとしたパッセージでは、
この曲のなめらかなハーモニーと混ざり合う内声部に
明瞭さと叙情性があり、短いスケルツォには、茶目っ気
だけではなく優雅さときらめきがあった。特筆すべきは、
やはり雄大でゆつくりした楽章で、スケールとともに、軽快さ
ときれいに紡がれた金線細工のような繊細さが備わっていた。
驚くほど複雑な対位法の流れを明瞭にするのにふさわしい
速度に抑えた演奏だった。(中略)《ハンマークラヴィア》の
前にハイドン、モーツァルト、ブラームスのよく知られた曲を
並べることで、ペライアはこの曲を歴史的に位置づけた。
落ち着いた繊細な演奏によるハイドンで始まり、
モーツァルトのエレガントで明瞭な演奏、後期ブラームスでは
揺れ動く音の流れから叙情への飛翔がみごとに表現されて
いた。

♪フィナンシャルタイムズ(2015年6月)から

マレイ・ペライアが大勢の忠実なファンに愛され続けて
いるのは、彼には名声をえたアーティストにありがちな、
“これ見よがし”なところが微塵もないためだ。その謙虚さ
は演奏にもにじみでている。彼はスタンドプレーとはまったく
無縁であると同時に、そのさりげなきが崇高な美を生み
だしている。

マレイ・ペライアピアノ・リサイタル

2016年10月31日(月) 19時開演
(18時30分開場)
サントリーホール

料金: S ¥14,500 A ¥12,400 B ¥10,000 C 売切 D 売切 ※料金はすべて税込です。
ジャパン・アーツ夢倶楽部会員料金: S ¥13,100 A ¥11,100 B ¥9,200

ハイドン: アンダンテと変奏曲へ短調 Hob.XV II : 6
モーツァルト: ピアノ・ソナタ 第8番 イ短調
ブラームス:
6つの小品より 第3番 バラード短調 op.118-3
4つの小品より 第3番 間奏曲 ハ長調 op.119-3
4つの小品より 第2番 間奏曲 ホ短調 op.119-2
6つの小品より 第2番 間奏曲 イ長調 op.118-2
幻想曲集 第1番 奇想曲 op.116-1
ベートーヴェン:
ピアノ・ソナタ 第29番 変ロ長調「ハンマークラヴィア」op.106

お問合せ: ジャパン・アーツぴあ 03-5774-3040 www.japanarts.co.jp

※その他日本公演: 10月28日(金) 19:00開演 浜離宮朝日ホール (問合) 朝日ホール・チケットセンター 03-3267-9990

NEWS!

ドイツ・グラモフォンと画期的な契約を締結!



©Carsten Windhorst / DG

ドイツ・グラモフォンがマレイ・ペライアと契約したことが発表されました。移籍第1弾アルバム『バッハ: フランス組曲』は10月26日発売予定です。マレイ・ペライアのコメントです。

「録音は、同じ作品にもう一度新たにに取り組む機会をあたえてくれます——作品についてあらためて考え、新たな気持ちで感じとる——それを通じて、ピアノ作品の傑作を自分の成長のあらゆる段階で探求することができるのです。バッハ、ベートーヴェン、モーツァルト、ショパン、ブラームスなどの作品と新たに向き合うことは、私にとってまさに特別な体験です。永遠に枯れることのない豊かさをもつ作品は、常にインスピレーションの源泉なのです。今回ドイツ・グラモフォンと結んだすばらしい絆を通じて、世界中の音楽ファンに私の演奏をお届けできるようになるでしょう」